

放射線データの概要 10月分（10月1日～10月31日）

● 2023年10月に公開したデータ数は約16,200件

（「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ公開）

● 敷地内ダスト（粉じん）濃度は低い濃度で安定

1号機では、2022年4月13日から大型カバー設置工事（アンカーおよびベースプレート設置）を実施中。

2号機では、原子炉建屋オペレーティングフロア内では2023年4月28日から10月4日にかけて同フロアの除染作業を実施。また、2023年6月19日から10月12日にかけて原子炉格納容器貫通孔（以下、X-6ペネ）ハッチ開放に向けたハッチボルト除去作業を実施。10月13日からX-6ペネハッチの開放作業を行い、10月16日に開放（開き角度：約90度の全開放）したことを確認。10月17日からX-6ペネ内に確認された堆積物除去に向け、X-6ペネハッチフランジ面の清掃を実施中。X-6ペネハッチボルト除去作業中、2号機原子炉建屋内作業エリアに設置している作業管理用ダストモニタにおいて、一時的にダスト濃度が上昇しているが、対策を講じたうえで安全を最優先に作業を実施。なお、2号機原子炉建屋オペレーティングフロア排気設備のダスト指示値に有意な変動はない。

これまで同様、構内ダストモニタ、敷地境界モニタリングポスト・ダストモニタの指示値に有意な変動はないこと、プラントパラメータに異常がないことを確認している。

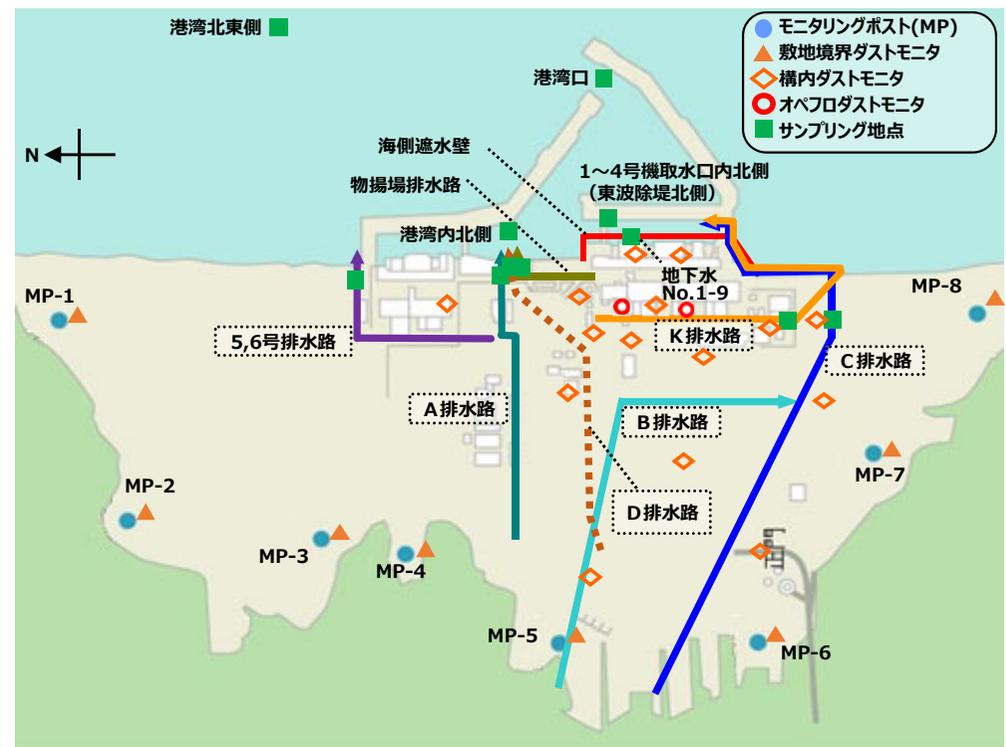
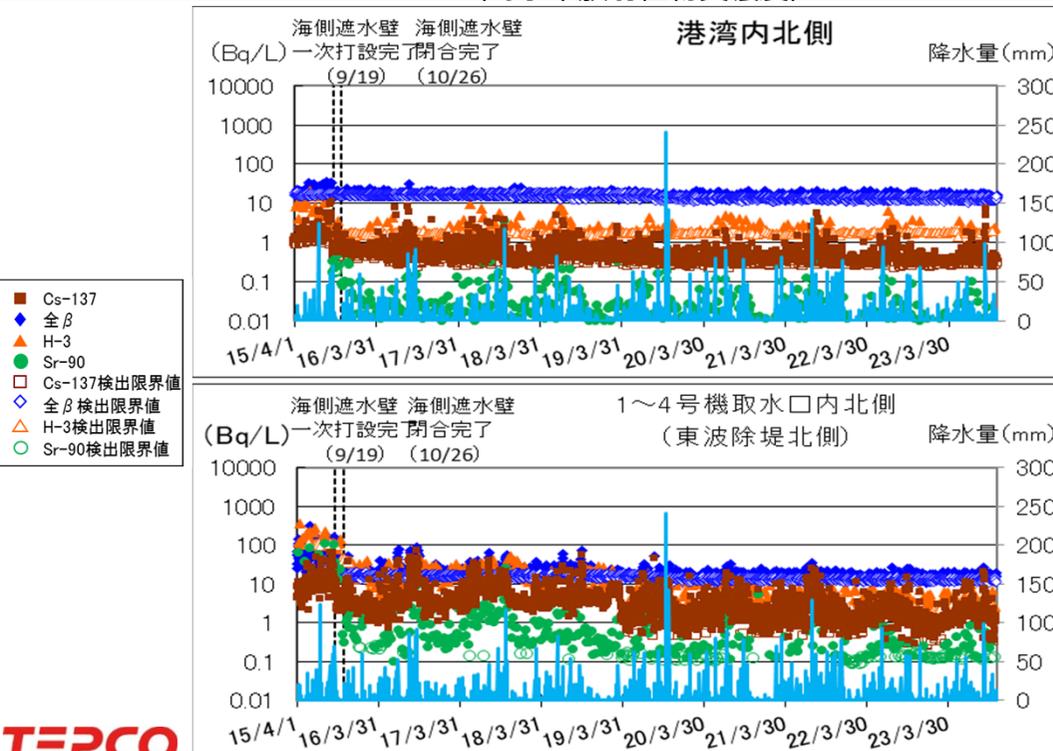
● 港湾内外の海水放射性物質濃度は低い濃度で安定

東波除堤周辺にて魚類移動防止網の本設化（リプレイス）工事を7月26日より実施中。また、1-4号機取水路開渠の海底土再被覆工事を10月16日より開始した。

港湾内の海水中セシウム濃度は、降雨後に一時的な上昇が見られるものの、速やかに低下して低い濃度で推移しており、工事による影響はみられていない。

10月5日から10月23日にかけて、海水で希釈したALPS処理水の2回目の海洋放出を実施。放出期間中、放水口付近（発電所から3km以内）の10地点、放水口付近の外側（発電所正面の10km四方内）の4地点で採取した海水について、トリチウム濃度を測定した結果は、いずれも指標（放出停止判断レベル、調査レベル）を下回っている。

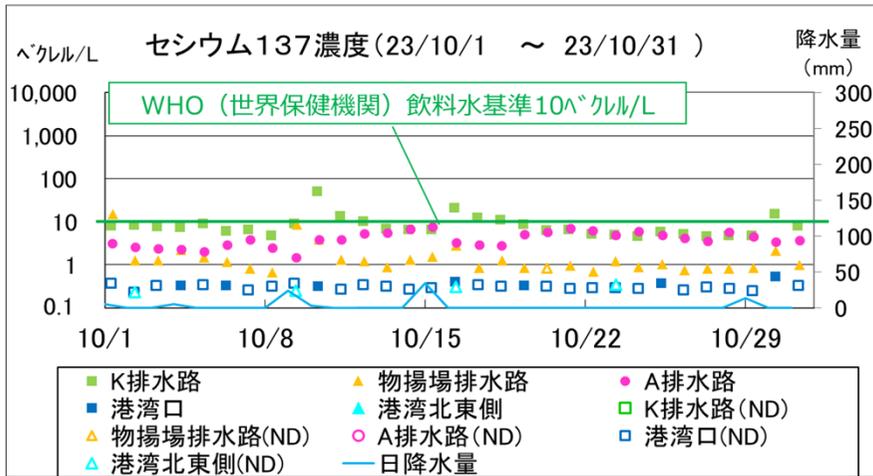
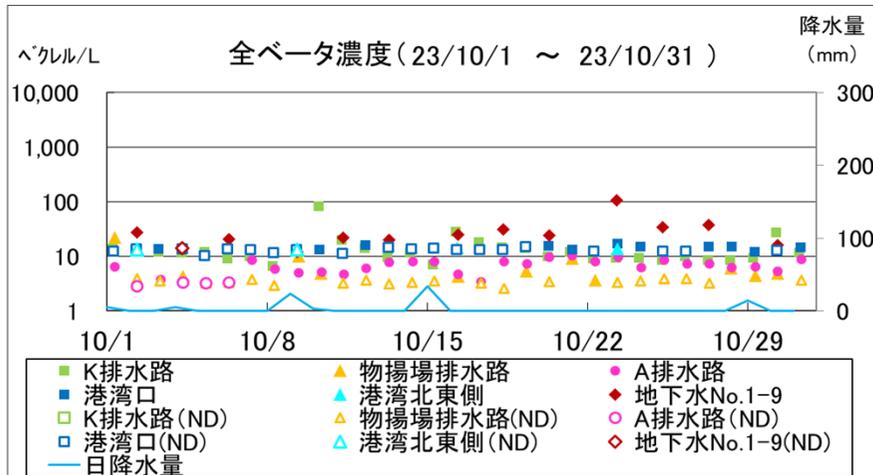
〈海水中放射性物質濃度〉



放射線データの概要 10月分詳細 (10月1日～10月31日)

A 水 (海水、排水路、地下水等)

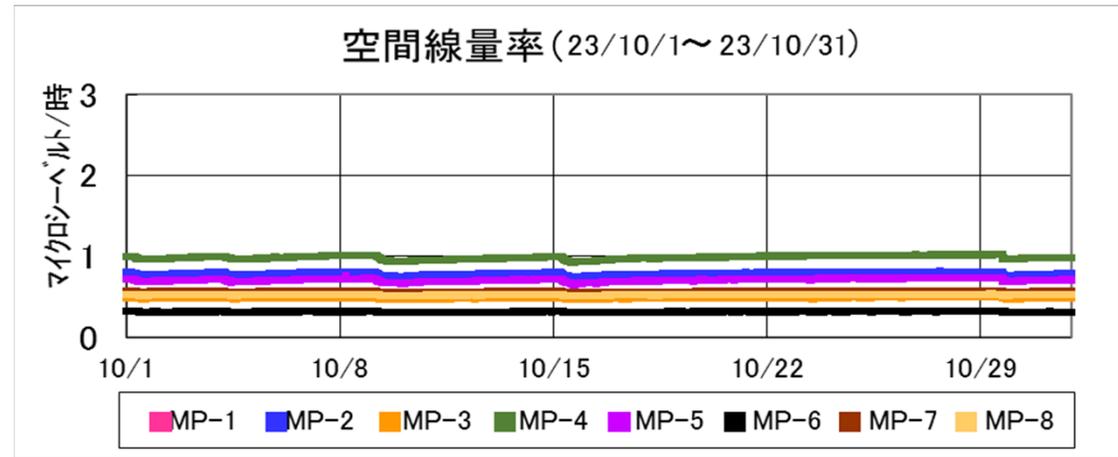
- ・降雨時には、排水路の全ベータ濃度、セシウム137濃度が一時的に上昇。
- ・セシウム137濃度は、上旬の大雨時にK排水路、物揚場排水路でWHO飲料水基準を上回ったが、その後はK排水路を除き概ね下回った。
- ・8月に、地下水No.1-9で周辺の地下水からの影響と思われる全ベータ濃度の上昇が見られたが、今月は低下傾向。



- 全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。カリウム、セシウム、ストロンチウム等が含まれる。
- 海水の全ベータについては、天然の放射性カリウムが約12ベクレル/L含まれている。
- (ND)は、不検出との意味で、グラフには検出限界値を記載。
- 地下水No.1-9については全ベータ濃度で監視。

B 空間線量率 (測定場所の放射線の強さ)

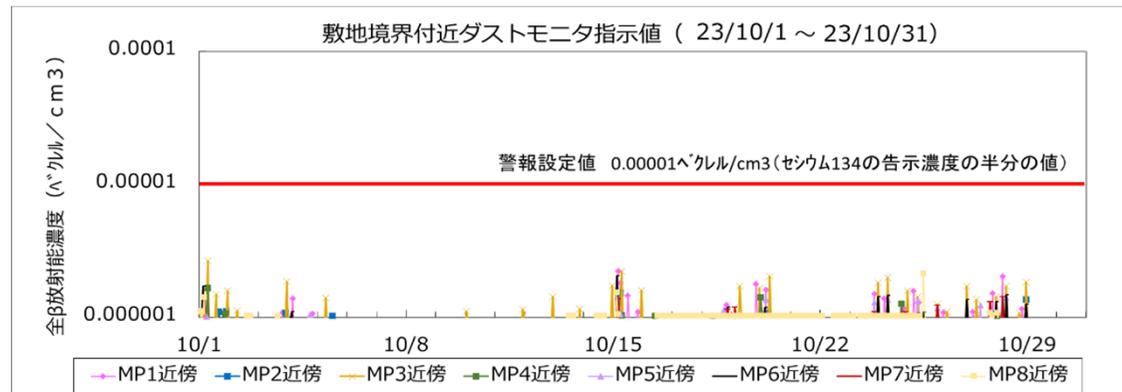
- ・低いレベルで安定。



敷地境界における1時間あたりの線量率を3マイクロシーベルトとすると、例えば1ヶ月間この場所で作業を行った場合 (1日あたり8時間、20日間作業をしたと仮定) の被ばく線量は約0.5ミリシーベルトになります。

C 空気中の放射性物質

- ・大きな上昇はなく、低い濃度で安定。

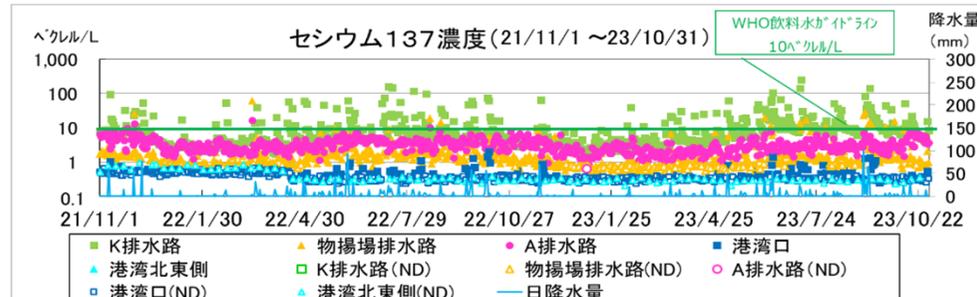
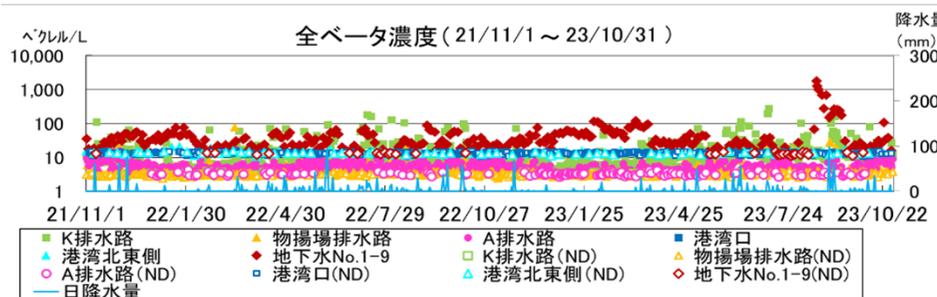


- 告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準

放射線データの概要 過去の状況

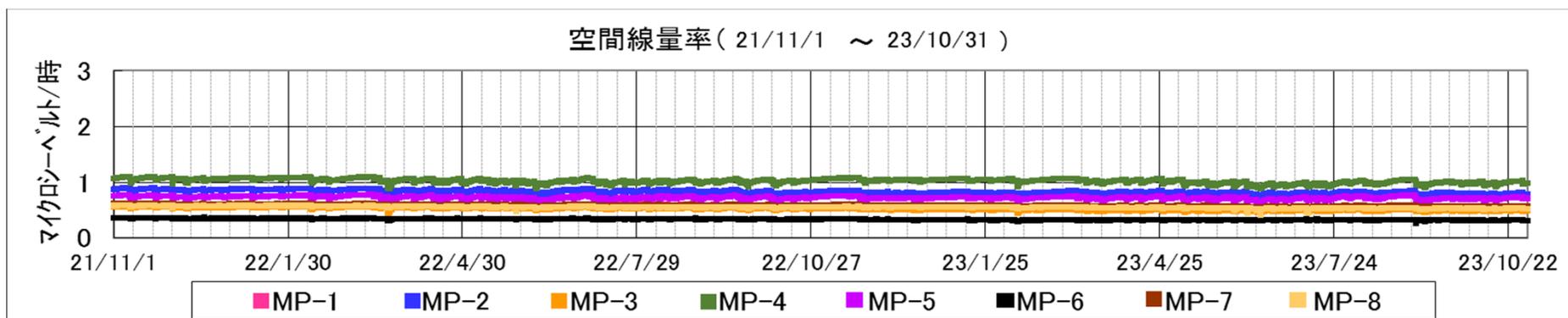
A 水（海水、排水路、地下水等）

- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未滿。
- ・K排水路のセシウム137濃度は、降雨の多い春から秋にかけて上昇がみられ、冬季は低下。排水路の清掃や敷地全体の除染等の対策を実施中。



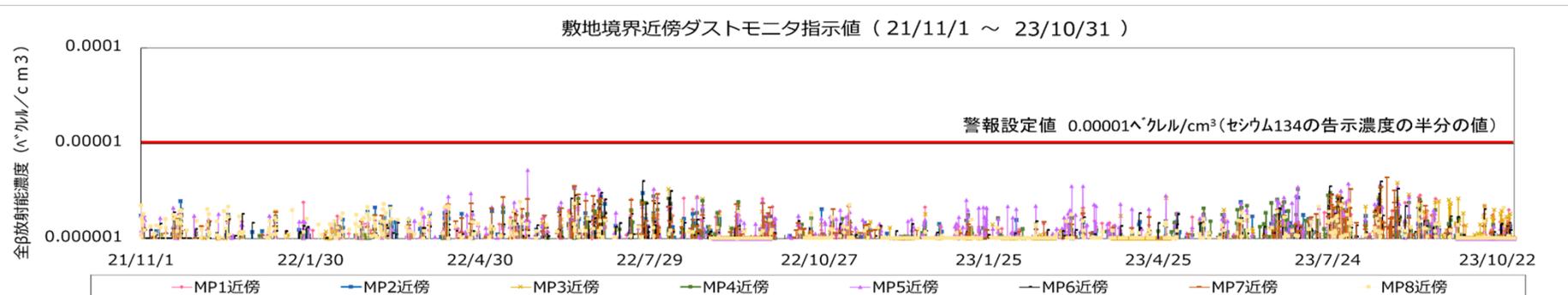
B 空間線量率

- ・全てのモニタリングポストにおいて、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、大きな上昇はなく、低い濃度で安定。

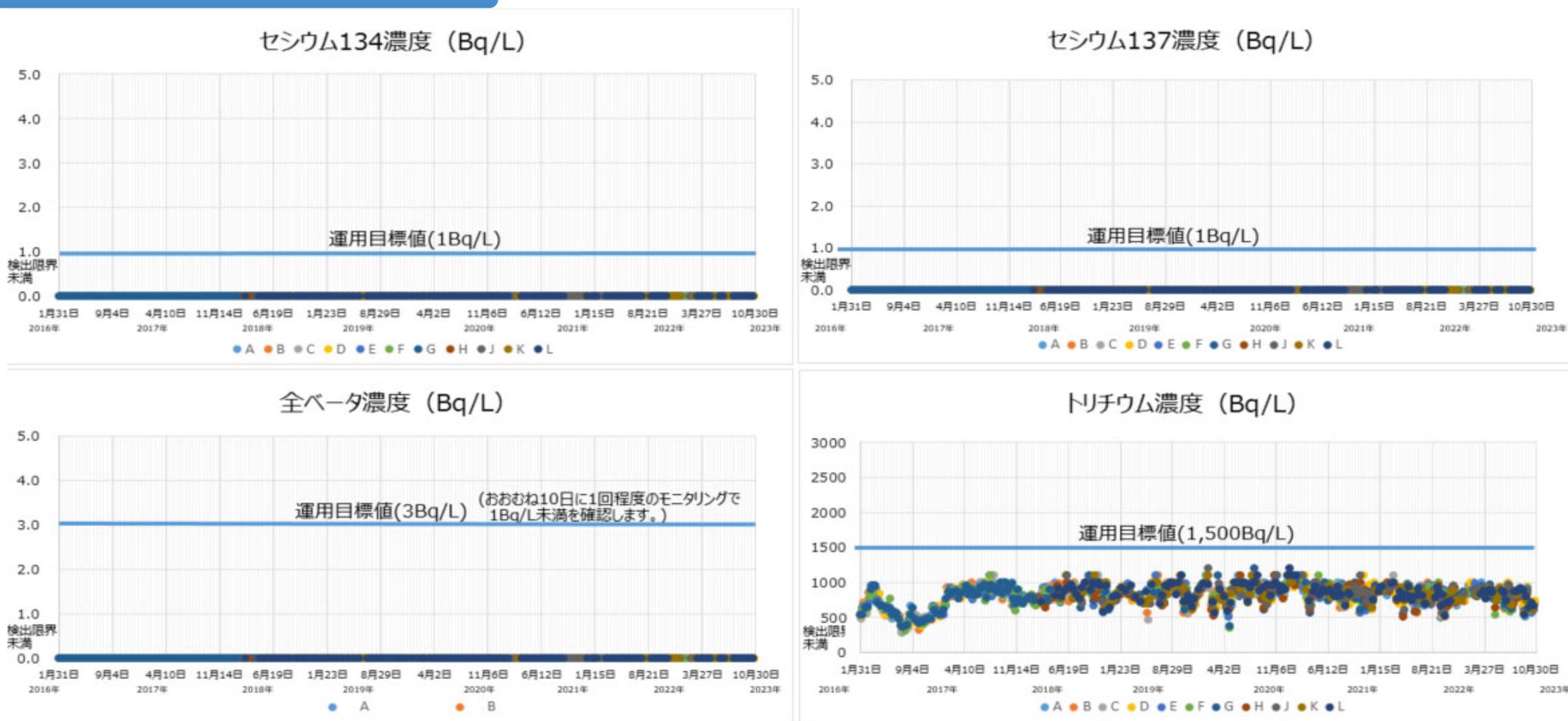


サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

- 一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果で、セシウム134、セシウム137、全ベータ（ストロンチウム等）、トリチウムが運用目標値を下回っていること、その他ガンマ核種が検出されていないことを確認。
- 同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認した上で、2015年9月14日から2023年10月31日までに合計2,314回、1,599,719m³を排水。
- 引き続き、分析結果が運用目標値を下回っていることを確認した上で排水する運用を徹底。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<https://www.tepco.co.jp/decommission/data/analysis/index-j.html>をご覧ください。